

令和5年度 西東京市立 碧山 小学校 学校評価表

学校教育目標	◎自分でよく考え工夫する子 ○ねばり強く前向きに取り組む子 ○人の立場に立って行動する子					
目指す学校像	子どもが生き生きと前向きに活躍し、保護者・地域から信頼される学校 ～一人一人のよさが生き、共に学び高め合っていく教育活動を通して～ (個性の尊重) (共生の重視)					
目指す児童像	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のために主体的に考え創意工夫する子 ・物事を前向きにとらえ、積極的かつねばり強く取り組む子 ・人とかかわりを大切に、力を合わせて活動する子 					
目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的・問題解決的な学習を实践し、子どもの自己解決力・学ぶ意欲の向上を図ることのできる教師 ・不断の向上心をもち、前向きに工夫・改善を目指す教師 ・一人一人の子どもを大切に、子どものわずかな変化を見落とさない教師 ・学校組織の一員として協力・協働して取り組む教師 ・子どもを中心に考えるとともに、保護者・地域から信頼される教師 					
後期学校自己評価						
		努力目標	成果目標	学校の取組及び改善策	評価	記述欄
確かな学力の向上	Q1 GIGAスクール構想の推進に向けて、タブレット端末の活用を図ることができたか。	3	3.6	夏休み以降に、普通クラス全クラスに、Webカメラとスタンドを整備し、タブレットを使って実物投影機のように手元の資料を写したり、ノートを写したすることができるようにした。このことによって、教師が児童と同じワークシートや教員を使って説明したり、タブレットに資料を取り込む手間や、一から作成する手間が省けたりと、効率よく活用することができるようになってきた。今後も児童には、調べ学習で活用させたり、写真機能を使って観察記録を撮ったりと、発達段階に合わせて積極的に活用していく。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの利点を生かして学ぶことは素晴らしい。 ・「自分の手で書くこと」が、記憶にもつながることもあるため、「手の学び」も大切にしたい。 ・端末の正しい使い方を学べるとさらに良い。 ・タブレットの機能を子どもたちが慣れ親しめるよう工夫がなされている。
	Q2 地域の教材、人材を活用したり、体験的な活動を取り入れたりと、問題解決力の向上を図ることができたか。	3	3.6	様々な教科、領域において地域の人材に学校にお越しいただき、お話を伺ったり、体験したりする授業を行うことができた。特に校内研究の社会科の学習においては、西東京市の防災について学ぶ際に、市のホームページやパンフレットを活用したり、災害を経験した方へ向けインタビュー活動を取り入れたりと、児童が問題解決に向けて主体的に学習に取り組めるような授業展開を行った。今後も、授業を通して児童の問題解決力の向上を図ることができるよう、教材研究に励み、資料の精選や活動の工夫を継続して行っていく。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の協力を上手に活用してよい体験授業を工夫している。 ・良い試みだと思う。 ・教室ではない学びを共にする意味を考えた。
豊かな心の育成	Q3 いじめをしない、させない集団作りを行うとともに、差別や偏見をもたせない学級経営、学年経営を行うことができたか。	3	3.6	いじめ虐待防止校内委員会を隔週に1度行い、各学年の状況を把握している。また、週に1度の生活指導夕会では、各クラスの状況や配慮する児童の情報共有を図り、全教職員で児童の様子を見るようにしている。さらに、管理職や教員間での報告・連絡・相談を密に行い、小さなことでも複数で対応できるように、職員間の話しやすい雰囲気づくりに努め、いじめを未然に防ぐようにしている。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かく対応していることに感謝している。 ・今後も続けてほしい。
	Q4 「西東京あったか先生」に沿った指導で、児童・保護者から信頼されるように努めることができたか。	3	3.4	研修等を通じて「西東京あったか先生」の理念などの共有、理解に努めた。また、児童に指導する際は、複数の教員で指導をするなどして、感情的な指導にならないように努め、児童の思いをしっかりと聞けるよう対応をした。また、児童が相談しやすいように、教師から積極的に声掛けをしたり、家庭と2学期のはじめには全員との面談を行ったりして、日頃から児童との信頼関係を築くようにしている。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・よき信頼関係がこれからも築けるようにしてほしい。 ・大変良いと思う。 ・先生方の子どもへの話しかけ、受け止めは授業参観等からとても「あたたかい」と感じる。先生を慕う子どもの顔が素敵。
	Q5 元気な挨拶、「はい」という返事を大切に、基本的な生活習慣の定着を図り、きまりを守る児童の育成に努めることができたか。	3	3.7	今年度からあいさつグッドワークの取組を各学年や学級で計画を立て、各学期に1週間程度取り組んでいる。児童の自主性を尊重し、取り組む中で気持ちのよい挨拶を習慣化できるよう続けていく。碧山小学校のきまりについては、来年度に向けて教職員で見直しを行った。ルールとして明記していることをきちんと守れるよう教職員で共通の認識を同じ指導をしていく。今後も児童が安全に過ごせる取組を行っていく。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自主性を尊重しながらよき働きかけをしている。 ・下校時のパトロールをしているが、挨拶してくれる子どもが増えた。 ・大人が挨拶をすること、家族で挨拶をすること。それをスタンダードにするべきだと思う。
健やかな体の育成	Q6 体力テストの課題運動を体育の導入に位置づけるなど、児童の体力向上を進めることができたか。	3	2.8	6月に行われた新体力テストの結果から、「投力の向上」を今年度取り組む課題と位置づけた。2学期から、休み時間にボールを校庭で借りられるようにしたことにより、多くの児童が外に出てボールに触れながら意欲的に運動に取り組めるようになった。また、ボールを投げる授業の際に、投げ方の基本を押さえられるようJ.Tを行い、体力向上を進められるようにした。	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍後で、子どもたちも運動の機会が少なかった。 ・荒木大輔氏の来校や大谷選手のグループなどを活用し、今後「体力向上」がみられると考えられる。 ・外遊びを家にいるときにもたくさんできると良い。
	Q7 児童の食物アレルギーに細心の注意を払うとともに、特別支援教育の充実を図るため、具体的な方策をもつなど保護者と協力して支援することができたか。	3	4	児童が安全に学校生活を送ることができるよう、給食の際に、複数の教員でチェックする仕組みを取り入れている。特別支援教育では、児童の実態を担任だけでなく特別支援コーディネーターや専門員、SCと日々情報共有を行っている。授業観察から具体的な支援・指導の仕方を共有することがおもしろい環境になっている。また、その方策を保護者の理解を得ながら進められている。今後も組織的に取り組むようにしていく。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・よく対応して児童の健康に配慮している。 ・ひとりひとりが伸びていく教育を工夫して進めてください。
地域と歩む学校	Q8 地域の人材を積極的に活用し、保護者や地域が学校に寄せる思いや願いを受け止め、すばやい対応・親身の指導を日々行うことができたか。	3	3.5	2学期は60周年記念式典や荒木大輔プロジェクト、3学期は道徳地区公開講座や書初め展、図工作品展等を実施する中で、保護者や地域の方々から学校にお越しいただく機会を多くもつことができた。また、保護者や地域の方々のご意見やご相談を受けた際には、電話でお話を伺ったり、直接お会いする機会を設けたりするなど、意見交換をしながら解決にあたることができた。今後も地域と歩む学校づくりを行っていく。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・よく取り組んでいる。 ・学校公開はとても楽しみにしている。今年度の子どもの成長が先生方の働きかけの賜物と感じる。
	Q9 学校便り・学年便り・学校ホームページ等を通じて情報発信に努め、教育活動に対する保護者や地域の理解を深めることができたか。	3	3.8	学校便りの年間計画のもと、学校便りを発行し、学校長の方針や学校の行事予定等を発信している。学年便りでは、学年の様子や学習等について月に一度お伝えしている。また、日々の教育活動の様子を写真に撮り、説明を加えて、ホームページに掲載している。来年度も、学校の様子が広く伝わるよう発信を続けていく。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページもよく工夫している。 ・学校のおたよりとても楽しみにしている。直接お会いしなくても、先生方の人柄を感じられる。
働き方改革	Q10 仕事の効率化を図り、時間外労働を減らすことができたか。	3	2.6	多くの業務を効率的に進めるために様々な工夫をしてきた。特に、担任以外でもできる仕事は副校長業務支援員・スクールサポートスタッフの力を借りたり、状況に応じて学校の教職員全員で協力し合ったりすることが効率化につながることを実感している。来年度に向けて、仕事の一部の人に偏ることがないような組織作りや年間の行事予定や取り組み方、学校のルールなどを教職員で見直している。今後も子どもたちのために教職員全員が元気に働けるよう、常に働き方改革を意識して、仕事を進めていく。	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の人数も少ない中で、効率を達成するのも限界があると思う。 ・学校単位での「工夫」はよくできている。 ・先生の数をぜひ増やしてほしいとずっと願っている。先生方の努力だけで「効率化」を求めるには限界があるのではないかと思う。

